野火止用水（２）

１１月２４日　（火）　薄曇り

★ 曇り空であるが雨の心配はなく、風もなく穏やかな初冬の散策となった。ひばりが丘駅に集まったのは前回より一人少ない１１名である。10 時 5 分に清瀬駅を出発。まず南口に出て左の道をひばりが丘の方へ戻る感じで進み、新小金井街道を越えて 10 分ほど行くと水道道路に出る。これが野火止用水に沿って走る道である。東京都清瀬市から埼玉県志木市に入っている。

★ 西武線の踏切を渡ると間もなく暗渠になっていた野火止用水が現れる。用水に沿って遊歩道が整備され、道の両側には様々な植物が植えられていて気持ちの良い散歩道である。踏切から 300 mほど行くと右手に小さな東屋があって、「埼玉縣指定史跡」と書かれた石碑と野火止用水の歴史などを書いた説明板が設置してある。

野火止用水を歩く

埼玉縣指定史跡の石碑

野火止用水の説明板

★ 西武線の踏切から 2.5ｋｍほどは淡々とした野火止用水沿いの遊歩道が続く。しかしケヤキの大木や桜並木があったり、山茶花、ツワブキ、バラなどが咲いていたり、南天やピラカンサの赤い実が生っていたりして飽きることがない。

ケヤキの並木を歩く

ピラカンサ

★ 用水分岐点で用水は 2 つに分かれ、本流は左へ、右は平林寺境内を流れる。2 つの流れに挟ま

れて史跡公園がある。雑木林の中にいくつかのベンチが置いてあるだけの公園である。ここで一休みして水分とエネルギー補給を行った。

野火止用水分岐点

史跡公園

★ 史跡公園を後に本流沿いに進むとやがて本多緑道となる。ここは用水沿いに桜並木となっていて、春には花見の名所となるそうである。右手は用水、左手は「本多の森」という林で、カサカサと落ち葉を踏みしめながら歩くと晩秋の静かさが身に染みてくる。本多の森に隣接して新座市の総合運動公園があり、体育館は実に立派で羨ましい限りである。

本多緑道

★ 本多緑道を出ると“ヴォーッ”という大きな音が聞こえてきた。関越自動車道を走る自動車の音である。産業道路の橋を渡って関越自動車道を越える。野火止用水も水道橋で関越自動車道を越えている。

関越自動車道を越える

緑色が水道橋

★ 関越自動車道を越えると間もなく平林寺の境内林を右手に見ながら歩くことになる。約 1 kmも続く道である。山下橋で右折して、こもれび通りを 500mほど行くと平林寺大門通りとの交差点の角に新座市役所がある。平林寺をぐるりと一周するコースは観光客も多く、観光ガイドの案内で歩く高齢者のグループが多かった。

平林寺境内林に沿った道

「たぬきに注意」

★ 平林寺門前の「たけ山」という手打ちうどんの店で昼食を取った。3 連休明けの平日にもかかわらずかなりの混みようであったが、幸いにすぐ席が取れた。清瀬駅から 2 時間以上歩いてきたのでお腹が空いていたし、かなり疲れていたのでゆっくり 1 時間ほど休憩した。

★ 「たけ山」のすぐ近くに「睡足軒（すいそくけん）」がある。「電力の鬼」と呼ばれた松永安左エ門が飛騨地方から移築した古民家で、茶会などを開いたところである。武蔵野の雑木林の面影を残す園庭も素晴らしい。

睡足軒の茶室・紅葉亭

睡足軒の園庭

★ 本日のハイライトは平林寺である。金鳳山平林寺は臨済宗妙心寺派の寺で、南北朝時代に岩槻に創建されたが、後に川越藩主・松平伊豆守信綱の菩提寺となり、岩槻から現在の野火止に移転した。総門、山門、仏殿、中門は埼玉県指定の有形文化財に指定され、大河内松平家の墓所として 3000 坪の墓所に 170 基の墓石が建っている。その中心は松平信綱夫妻の墓である。
境内林は 13 万坪の広さ（東京ドーム 9 個分）があり、武蔵野の雑木林の面影を残す貴重な文化財として国の指定天然記念物に指定されている。

総門、山門を通り抜けて境内に入ると、一面を真っ赤に染めた紅葉が目に飛び込んできて一同大きな歓声をあげた。今まさに平林寺の紅葉はその美しさの絶頂にあるように見えた。京都の寺院の紅葉の美しさはよく知られているが、平林寺のそれは京都の寺院に勝るとも劣らない見事さであった。

4 人の俳人から俳句を頂きました。

山門の　奥ほど色付く　紅葉かな

森深く　むじなは見えず　紅葉狩り　　まさお

分水の　板に嵩増す　枯れ落葉

境内に　色を重ねし　冬紅葉　　志賀　勉

山門に　色競ひ合ふ　冬紅葉

茅葺きの　茶室しづかに　冬日影　　辻　直邦

雑木紅葉　一直線の　用水路

紅葉を　かざす仁王や　平林寺　　桑田青三

・参加者　　金子正男、桑田制三、小島恕雄夫妻、志賀　勉、辻　直邦、
原田一彦、水野聰夫妻、臼井静江、中村仁美　　以上１１名

写真と文　小島恕雄